

武井 将伍 (平成25年卒)

国立がん研究センター東病院の消化管内科で大腸癌に対する免疫療法のバイオマーカー解析を研究させていただきました。

2021年4月からの3年間、国立がん研究センター東病院の消化管内科での国内留学の機会を得られたことは、私の医師及び研究のキャリアにおいて非常に重要な経験となりました。同施設は、TR研究を含むがん研究の分野で国内屈指の機関であり、その高い研究水準と刺激的な環境の中で学ぶことで、私の学術的視野を大きく拡張することが出来たと感じております。

本留学で、私は主にMSS大腸癌に対する多剤併用免疫療法の効果予測因子となるバイオマーカー解析に関する研究を行いました。免疫療法は特定の腫瘍に対して従来の化学療法と比して劇的な効果を示すことが知られており、がん治療において非常に注目されている領域ですが、大腸癌のほとんどを占めるMSS大腸癌に対してはその効果が限定的であるとされています。この課題に対する解決の糸口となり得る研究に取り組めたことは、私にとって大きな意義がありました。消化管内科で日々の臨床業務を行う中でエキスパートから化学療法について学びながら並行して研究を行っていたことは、時間管理がとても大きな課題でしたが、理論（研究）と実践（臨床）のバランスを理解する上で非常に有益であることを実感しました。

また3年間の中で消化管内科以外の科（病理診断科、放射線科、緩和医療科、精神科、中央病院の大腸外科など）をローテーションする機会もいただき、がん治療を多方面から学ぶことが出来ました。さらに、食道癌の周

術期におけるctDNAに関する研究にも携わる機会もいただき、2023年のASCOで中間報告を発表する経験をしました。このような国際的な学術集会での発表は、キャリアにおいて非常に重要なステップとなったと感じております。

国立がん研究センター東病院での臨床と研究を通じて得た経験は、専門知識の深化だけでなく、がん治療に関する私の視野を広げてくれました。これは医師としての活動において大きな財産となったと思います。この同門会誌への報告を通じて、本留学を支援して下さったし全ての方々への深い感謝の意を表するとともに、私が出た知見と経験がこれから大学院を目指す先生方にとっての励みとなれば幸いです。

